

親鸞さまの

【本文】

菩提ぼだいをうまじきひとはみな

専せん修念じゆねん 仏にあだをなす

頓とん教ぎょう 滅めつのしるしには

生しょう 死じの大だい 海かいきはもなし

【意識】

お経の説かれるところを良く分らずに、仏様に成ることが出来ない人の多くは、

専らにお念仏を称となえ極楽浄土へ往くという教え(お経)を誤解して批難しています。

このような人達は、命終わって速やかに仏様に成るといふ教えを誹謗(ひぼう)中傷したり滅ぼそうとする報いを受けて

迷いの大海にさ迷い続ける事でしょう。

【私の味わい】

先日、大丸須磨店で、僧侶有志による法話並びに茶話会に参りました。四階の催事場の一角で、売り場に向かつて法話するのは新鮮でしたし、様々な仏事を中心としたご相談を伺って充実した時間を過ごしました。その会場の表に、「宗活」と銘打ってありました。就活、婚活など最近様々な「活」道の名称がありますが、「宗活」とは、終活に伴って宗教(つまりお寺さん)との繋がりを事前に持とうという趣旨のようです。確かに、もしもの時に顔なじみの僧侶が儀式を行うのと、全く初対面の僧侶が行うのでは安心感に違いがあるでしょう。

特に、仏事等のことを全く知らずに、無宗教式を選択することの弊害を未然に防止する意味ではとても良い活動と言えましょう。親鸞聖人当時も、お経に説かれていることをよく分からないままに「仏教とはこういうものだ」という思い込み・決めつけをする人が少なくなかったことが述べられています。また、思い込みが行動になって、お念仏する人を批難している現実を聖人は嘆いておられるのです。

前号でも触れたことですが、昨今言われる無宗教とは、無宗教を掲げた自分教に他なりません。「宗教を持たないという自分を信じている」ということです。仏教を知らず思い込みで批難して、「無宗教」を標ひょうぼう 榜ぼうする姿を阿弥陀様は慈しみの眼でご覧になっています。その眼差しを感じながら、手を合わせて生活したいものです。(悠水)